

## 科の説明

当院は地域がん診療連携拠点病院であると共に日本緩和医療学会の認定研修施設であり、緩和ケア内科は、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・緩和ケア外来のそれぞれに診療活動の場を持ち、主に悪性腫瘍の患者・家族に対する緩和ケアの実践を通して臨床・教育・研究を行ないます。

研修医は緩和ケア内科の医師の指導のもとに患者と家族の抱える苦痛のアセスメントを行ない、各科の医師や他職種とも協力しながら苦痛に対するマネジメント（対処・支援）を行ないます。

## 一般目標

悪性腫瘍をはじめとする生命を脅かす疾患に罹患している患者・家族の QOL の向上のために、基本的な緩和医療を行なうことができる能力を習得する。

## 行動目標

- 1) 患者の苦痛を全人的苦痛として理解し、身体的苦痛だけではなく、心理的、社会的、スピリチュアルな苦痛についても把握し、列挙することができる。（解釈）
- 2) 患者の人格を尊重し、傾聴することができる。（態度）
- 3) WHO 方式がん疼痛治療法について具体的に説明できる。（知識）
- 4) 症状マネジメントに必要な薬物療法および非薬物療法について述べるができる。（知識）
- 5) 患者・家族に対して必要な医療情報を適切なタイミングと方法で伝えることができる。（技能）
- 6) 患者・家族のおかれた社会的、経済的問題に配慮し、それに対する援助のための社会資源を適切に紹介、利用することができる。（技能）
- 7) チーム医療の重要性と難しさを理解し、チームメンバーのそれぞれの専門性と意見を尊重し、チームの一員として働くことができる。（態度）

## 経験目標

- 1) 病歴の聴取（発症時期、発症様式、苦痛の部位、性質、程度、持続時間、推移、増悪・軽快因子など）を適切にできる。（技能）
- 2) 身体所見を適切にとることができる。（技能）
- 3) 症状を適切に評価することができる。（解釈）
- 4) 鎮痛薬（特にオピオイド）を正しく理解し、処方することができる。（技能）
- 5) 薬物の経口投与や非経口投与（持続皮下注や持続静脈注射など）を正しく行なうことができる。（技能）

- 6) 患者が病状をどのように把握しているかを訊き、評価することができる。(解釈)
- 7) 患者および家族に病気の診断や見通し、治療方針について(特に悪い知らせを)適切に伝えることができる。(技能)
- 8) 適切なタイミングで必要な情報を患者・家族、医療チームのメンバーに伝えることができる。(技能)
- 9) 患者からの困難な質問や感情の表出に対応できる。(技能)
- 10) 患者や家族の治療に対する考えや意志を尊重し、配慮することができる。(態度)
- 11) 患者が治療を拒否する権利や他の治療についての情報を得る権利を尊重できる。(態度)
- 12) 患者・家族と治療およびケアの方法について話し合い、治療計画を共に作成することができる。(技能)
- 13) 以下の疾患および症状、状態に適切に対処できる。(技能)

## (1) 疼痛

- ・がん性疼痛
- ・神経障害性疼痛
- ・侵害受容性疼痛
- ・非がん性疼痛

## (2) 消化器系

- ・食欲不振
- ・嘔吐
- ・下痢
- ・腹部膨満感
- ・消化管穿孔
- ・嚥下困難
- ・口内炎
- ・肝不全
- ・嘔気
- ・便秘
- ・消化管閉塞
- ・腹痛
- ・吃逆
- ・口腔・食道カンジダ症
- ・黄疸
- ・肝硬変

## (3) 呼吸器系

- ・咳
- ・呼吸困難
- ・胸痛
- ・難治性の肺疾患
- ・痰
- ・死前喘鳴
- ・誤嚥性肺炎

## (4) 皮膚の問題

- ・褥瘡
- ・皮膚潰瘍
- ・がん性出血
- ・ストマケア
- ・皮膚掻痒症

## (5) 腎・尿路系

- ・血尿
- ・排尿困難
- ・水腎症(腎瘻の適応を含む)
- ・慢性腎不全
- ・尿失禁
- ・膀胱部痛

## (6) 中枢神経系

- ・原発性・転移性脳腫瘍
- ・けいれん発作
- ・神経筋疾患
- ・頭蓋内圧亢進症
- ・四肢および体幹の麻痺
- ・腫瘍随伴症候群

## (7) 精神症状

- ・抑うつ
- ・不安
- ・せん妄
- ・恐怖
- ・適応障害
- ・不眠
- ・怒り

## (8) 胸水、腹水、心のう水

## (9) その他

- ・悪液質
- ・リンパ浮腫
- ・倦怠感

## 14) 以下の腫瘍学的緊急症に適切に対応できる。(技能)

- ・高カルシウム血症
- ・大量出血(吐血、下血、喀血など)
- ・上大静脈症候群
- ・脊髄圧迫

## 15) ケアの到達点を設定し、必要な資源を列挙して調達し、その結果を評価できる。(解釈)

## 16) 医療チームのメンバーと共に患者やその家族の状況と今後可能なマネジメントの方法についてディスカッションできる。(解釈)

## 17) 診療情報提供書、介護保険主治医意見書、訪問看護指示書などの書類を作成できる。(技能)

## 18) 死亡確認および死亡診断書の作成ができる。(技能)

## 19) 臨死期および死後の患者家族の心理に配慮し、適切な言葉をかけることができる。(態度)

## 指導体制

- 1) 指導医・研修協力医と研修医が、ともに患者の症状のアセスメントとマネジメントを行なう。(on the job training)
- 2) 指導医(またはファシリテーター)によるシミュレーション教育。(off the job training)

## 週間スケジュール

	午前	午後
月曜日	緩和ケア病棟での診療	緩和ケア外来（症状緩和）
火曜日	緩和ケア病棟での診療	緩和ケア外来（リンパ浮腫）
水曜日	緩和ケア病棟での診療 緩和ケアチームの定期回診	
木曜日	緩和ケア病棟での診療	緩和ケア外来（PCU への入院相談） 緩和ケアチームカンファレンス
金曜日	緩和ケア病棟での診療	ふりかえり・退院サマリー作成

※その他に定期ではない予定として、緩和ケアチームに依頼が出た際のコンサルテーションのための一般病棟入院患者の回診、退院前カンファレンス（在宅緩和ケアへ移行する入院患者の退院前のカンファレンス）や各科担当医の患者・家族への病状説明時の同席などがある。

## 定例研修会等

- 1) 日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本死の臨床研究会など全国規模の学術集会およびそれぞれの学会・研究会が主催する教育セミナーへの参加。
- 2) 三重緩和医療研究会、南勢地域緩和ケアネットワークなど、県内で行なわれる緩和医療関連の講演会・勉強会への参加。
- 3) 院内では、緩和ケアチームが企画する研修や勉強会、がん診療連携拠点病院として毎年開催する「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」（PEACE プロジェクト）への参加。

## 具体的な研修方法・留意事項

- 1) 診察、検査、診断、処置などは、すべて指導医・研修協力医の指導・助言のもとに行う。
- 2) 患者や患者の家族のプライバシーに関わる情報の扱いには気をつける。患者の診療上必要な情報は、担当医や患者のケアに直接関わるスタッフ間でのみ共有すること。
- 3) 患者情報（特に個人が特定されるような情報）を院外に持ち出さないこと。院内でも情報が記録された印刷物やメモリーを紛失しないよう十分気をつけること。